



## 研修講座 A-7 俳句研修 を実施しました！

「句会の楽しみを知るための俳句教室」

【講師】芭蕉翁顕彰会 植田 美由喜さん

5月20日（月）に研修講座「俳句研修」を実施しました。講師に芭蕉翁顕彰会の植田さんをお迎えし、俳句の作り方について学びました。

前半は、俳句の作り方や作る時に意識することなどについてご指導いただきました。俳句の作り方については、以下の順番で考えるとよいことを教えていただきました。

- （俳句の作り方）  
俳句は十七音 上五 十中 七下 五
- ① まずは、季語でない五音のことばを見つけ、下五にする。
  - 例① 掛け時計
  - 例② プリンター
  - 例③ 色鉛筆
  - ② 次に、五感・六感（六感目は連想力）を働かせ、中七を考える。
  - 例① 三角形の掛け時計
  - 例② 高い音するプリンター
  - 例③ 二十四色の色鉛筆
  - ③ 最後に、五音の季語を探す。
  - 例① 春惜しむ三角形の掛け時計
  - 例② 夏の風高い音するプリンター
  - 例③ 秋の庭二十四色の色鉛筆



①番では、日頃から観察力を働かせて5音のことばを見つけたら、俳句手帳にメモをしていくことが大切であることを学びました。③番の季語を探す際には、歳時記を活用して、季語を探すことでより日本の文化を知ることにもつながることが分かりました。

また、俳句を作る時に意識したいこととして、「中七は7音を守る」「季語は1つにする」「切れ字（や、かな、けり）を使う時は1つだけ」を意識することが大切であることを学びました。

後半は、受講者全員で句会を行いました。一人ひとりが考えた3つの俳句を投句し、投句した俳句からいいなと感じた俳句を1人3句ずつ選んだ後、全員が一人ずつ発表していきました。発表いただいた句からは、その時の情景、感じたこと、句に込められた思いなどを読み取ることができました。本研修講座で学んだことを各校で還流いただきますようよろしくお願いいたします。

### アンケートより【一部抜粋】

- ・俳句を詠んだ経験がなく、昨年子どもに指導する時にうまく伝えられなかったので、今回参加させてもらいました。どこから書けばいいのか、季語の種類、切れ字の使い方など俳句の初心者の方にとっては易しく分かりやすい内容でした。(小)
- ・スライドで分かりやすくまとめていただいていたので、作り方が参考になりました。子どもと創作の楽しさを分かち合えるような授業を考えたいです。(中)